2022　富田林市立図書館

中学生

夏のおてがみ

毎日暑いですね。みなさんはどうやって気分転換しますか？音楽を聴いたり運動したりするのかな？図書館でゆったり過ごすのもおすすめです。

『音楽をお月さまに』

フィリップ・ステッド／文
エリン・ステッド／絵
田中　万里／訳
カクイチ研究所

ある夜、ハリエットが一人で静かにチェロを弾こうとしていると、邪魔をするようにフクロウが鳴きだしました。ハリエットは静かにしてほしくて、空に向かってティーカップを投げました。すると投げたカップは月に当たり、空から月が落ちてしまいました。内気な女の子とお月さまの心あたたまる交流を描いた絵本です。

『ふしぎの森のふしぎ』

ヤン・パウル・スクッテン／文
メディ・オーベレンドルフ／絵
塩﨑　香織／訳
川上　紳一／監修
化学同人

森には、色んな生き物が住んでいます。動物や昆虫はもちろん、植物や菌類まで。それらの生き物は、お互いがいないと生きていけません。人に嫌われることの多い昆虫が、もし地球からいなくなってしまうと植物が受粉できなくなり、植物の8割が死んでしまいます。色んな生き物で支え合っている、いのちあふれる森を、絵と文章で楽しめる一冊です。

『はっけん！オオサンショウウオ』

関　慎太郎／写真
AZ　Relief・桑原　一司／編著
緑書房

オオサンショウウオという生き物を知っていますか。成長すると1メートル以上にもなるめずらしい両生類で、現在は絶滅の危機にあります。普段あまり知ることのできないオオサンショウウオの特徴やくらしの様子を、たくさんの写真とともに見ていきましょう。絶滅から守るための保全活動や保護施設についてもくわしく載っています。

『日本のことばずかん　いろ』

神永　暁／監修　　講談社

「赤」と聞いて皆さんはどんな赤を思い浮かべますか？紅葉のような赤でしょうか。それとも夕焼け空の赤でしょうか。思い浮かべる人によって違うさまざまな赤があるように、日本では同じ系統の色でも、微妙に異なる色味それぞれに名前を付けてきました。日本人が色の表現に込めてきた思いを感じてみてください。

『いぬとふるさと』

鈴木　邦弘／絵・文　　旬報社

柴犬の「わたし」はある日、飼い主のおじさんと一緒に、懐かしい匂いのする町を歩きました。「静かだな。人がどこかに行っちゃった。会うたびにほえたあいつもどこかに行っちゃった。」いっぱい走った大好きな田んぼもすっかり姿をかえていました。3．11（東日本大震災）から数年経った町の様子が一匹の犬の目を通して静かに語られます。

『ネコ博士が語る　海のふしぎ』

ドミニク・ウォーリマン／文
ベン・ニューマン／絵
田中　薫子／訳
徳間書店

海とひとことで言っても、海岸から深海までさまざまな環境がある。海中で暮らす生物の種類がどんなに多いことか。海の上空には海鳥も。ところで、バス三台分の長さのクジラがいるって知ってた？おしゃれなイラストで海にまつわるトリビアをたっぷり知ることができる。情報満さいで興味がつきないかも。

SDGsとは？

誰ひとり取り残されることなく、人類が安定してこの地球で暮らし続けることができるように、世界のさまざまな問題を整理し、解決に向けて具体的な目標を示したのが、SDGs（持続可能な開発目標）です。

２０１５年に国連で採択され、国際社会は一致団結して、2030年を目指してこの目標を達成しよう、と合意しました。

出典：日本ユニセフ協会のSDGs子ども向け解説
https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/

『勝つ！百人一首
「競技かるた」完全マスター』

岸田　諭／監修
メイツユニバーサルコンテンツ

「競技かるた」とは、小倉百人一首を用いて札を取り合う競技のことです。この本では、競技かるたの名人岸田諭さんが勝つコツを細かく紹介しています。百人一首を覚えるコツはもちろん、戦術や心構えなども書かれています。経験者だけでなく、初心者にもわかりやすく書かれているので、この本を読んで勝負してみてください。

『マイブラザー』

草野　たき／著　ポプラ社

公立中学に通う十四歳の海斗は弟の保育園の送り迎えをして、遊びにも連れていく。家族思いにみえる海斗には秘密があった。中学受験を目指していた小6の時に憧れの父さんが突然、それまでの仕事を辞めてパン職人を目指しだしたのだ。海斗はそんな現実を受け入れられず、弟の面倒をみることで目をそらしていたのだった。

『ぼくは川のように話す』

ジョーダン・スコット／文
シドニー・スミス／絵
原田　勝／訳　偕成社

ぼくにはうまくいえない音がある。学校では毎朝ひとりずつ、世界でいちばんすきな場所について話すことになっていた。きょうはぼくのばん。みんなの口がわらっている。放課後おとうさんがぼくを川へつれていってくれた。「ほら、あの水の流れを見てみろ。おまえの話し方にそっくりじゃないか。」おとうさんにそう言われた。

『小さな手　ホラー短編集4』

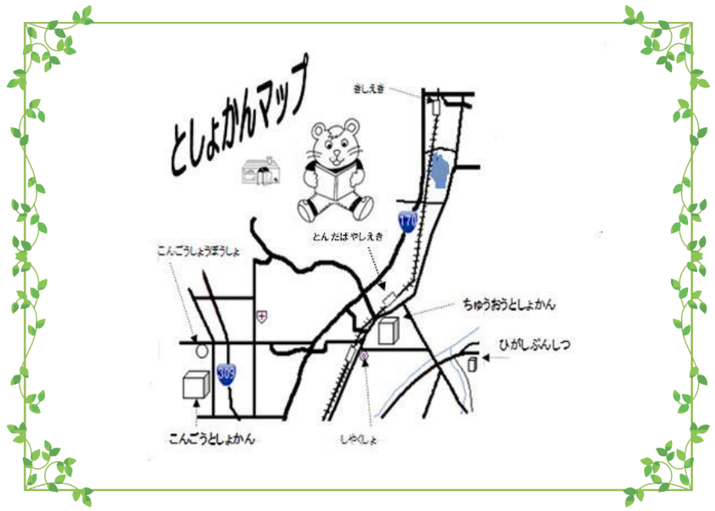
金原　瑞人／編訳　佐竹　美保／絵
岩波書店

願いごとをしてしまったがゆえに引き起こった悲劇や、手に追われ続ける怪異など不思議で妙な英米ホラーの傑作が8話収録されています。英語圏の作家としてはじめてノーベル文学賞を受賞したキプリングの作品も含まれています。読書で涼しくなりたい人におすすめです。シリーズは他にもありますので、ぜひ読んでみてください。

『めぐりめぐる』

ジーニー・ベイカー／作
わだ　すなお／訳
ポリフォニープレス

オオソリハシシギは、何千年にもわたって北のすみかから南のすみかへと行き来する空の旅を続けてきました。この本では、鳥と一緒に飛んでいるかのような視点で絵が描かれており、一緒に空の旅を体感することができます。また、オオソリハシシギの群れのそばには、人間やまちの様子も描かれています。そんなところに注目してみるのもおもしろいかもしれません。



『キリン解剖記 ジュニア版
キリンの首の骨が教えてくれたこと』

郡司　芽久／著
ナツメ社

歩道橋の高さほどあるキリンを解剖するには、どうやって運ぶのか、どんな道具を使うのか、みなさんは興味ありませんか？哺乳類では動くことのない胸の骨が、首の骨のように動くことを発見し、著者が念願のキリン博士になるまでの出会い、学び、発見の日々から博物館の裏話まで。理科の知識がなくても、どこをとっても楽しめます。

『エレキテルの謎を解け
電気を発見した技術者平賀源内』

鳴海　風／著
高山　ケンタ／画
岩崎書店

初めて見るものでも、どう作られているかすぐに見抜くことから天狗小僧と呼ばれていた平賀源内。しかし、長崎で出会ったエレキテルの仕組みがどうしてもわかりません。試行錯誤の末に仕組みを理解し、自分でエレキテルを作ることに成功します。そんな平賀源内の一生を紐解きます。平賀源内が自分で作ったエレキテルは現存しています。

『古典がおいしい！　平安時代のスイーツ』

前川　佳代・宍戸　香美／著
かもがわ出版

今から千年ほど前の平安時代に、どんなスイーツを食べていたのか興味ありませんか？天皇や貴族たちは、「あまづらせん」という甘いシロップを使ったお菓子を食べていました。枕草子のけずり氷や源氏物語のつばきもちなど、平安時代に書かれた物語に出てくる甘いお菓子が、再現されたレシピと一緒に紹介されています。